



## 優良工事表彰を受賞して

ヒロシ(株)  
西尾光正

この度、今市古志線 地方道路交付金(街路)事業 道路改良工事(第2期)に於いて、優良建設工事知事表彰を頂き、大変光栄に思っています。

この工事は、平成21年に開通する今市古志線内の出雲高校付近の交差から出雲市隣保館までの区間を拡幅(1部新設)する工事で主な工事内容として、車道部の置換工法による地盤改良、用水路及び排水路2箇所をプレキャストボックスカルバートに改築、道路両端部に道路側溝を設置する工事でした。

工事を進めていく上で問題になったのが、2点ありました。

1点目がライフライン等との工程調整で、現道(幅=3.7m)内に水道管及び電柱が設置してあり、これらを拡幅に伴い仮移設及び新設する工事、拡幅する部分(歩道部)にも水道管、ガス管、下水道管、道路標識を新設する工事が各機関から発注されており、同時施工を余儀なくされる箇所も多く、自社だけでは工程が立て難い上に、打合せミスによる工程の遅れが懸念されましたが、密に連絡を取り合うことにより大きなトラブルも無く、工期内に無事完成することが出来ました。

2点目が既設排水路をプレキャストボックスカルバート(L=92.0m)に改築する工事で、施工区間は3度に分けて施工しましたが、水替えは、全区間を昼夜間を問わず排水するしかなく、上流部に雨天時の水量に合わせて水中ポンプを設置しましたが、晴天時と雨天時の水量の差が大きく、晴天時には空気を吸い込む音が響くようになり対策を検討した結果、水位センサーと連動した自動スイッチを設置することにより水量が少ないときには運転を止める事で騒音対策に対応した上、原価の削減にも大いに役立ちました。

最後に今回の受賞にあたり、お世話になった近接住民の皆様、御指導を賜った発注者の皆様、工事を支えてくれた協力会社の皆様に心から深く感謝申し上げますと共に、この受賞を励みにスタッフ一同と共に一層頑張っていきたいと思っております。



今市古志線 地方道路交付金(街路)事業 道路改良工事(第2期)



## 優良工事表彰を受賞して



(株)内藤組  
多々納 英治

この度、中央病院小山医師共同宿舎改修(建築)工事で、優良建設工事表彰を頂いたことを大変光栄に思っております。

また、表彰を頂いたのは県土整備事務所の監督員の皆様、近隣住民の皆様の協力のおかげがあったからだ大変感謝しております。

今回の改修工事は、内外部共全面改修工事であり、アルミサッシ以外はすべて撤去、間取り替えによる間仕切壁斫り撤去作業がありました。

撤去作業時は、ブレーカーを使用するため騒音及び粉塵対策を考慮しなくては行けませんでした。

その為、作業前に近隣の方へ工事内容、連絡先などを説明し、騒音が予想される作業は時間を決め、それ以外の時間は作業をしないという時間制限を設定しました。粉塵対策としては送風機、集塵機を設置し外部への粉塵の飛散、内部での作業環境の改善に努めました。

工事期間が冬場ということもあり、外部の仕上工事も天候に左右され苦労がありました。

毎日の天気、気温を確認し業者との作業工程の打合せを綿密に行い、工程が遅れることのない様に細かく作業範囲などを分けて施工しました。

工程に余裕はありませんでしたが、無事工期内に完成することができました。

どの現場でも完成した時の達成感がありますが、この工事の時は今までにない達成感がありそれがこの賞につながったのではないかと考えています。

今後もこの賞を頂いたことを励みに日々努力し、情熱をもって皆様方に喜んでいただけるような仕事を目指していきたいと思っております。



中央病院小山医師共同宿舎改修(建築)工事





(株)新井建設  
専務取締役 新井 藤水



昭和58年、工事中に現れた立木  
左側25年前の本人の後姿

## あけましておめでとうございます

建設業に拘わって39年、その間に私は思いがけず素晴らしい出会いに遭遇することができました。それは、平成10年の**大田市三瓶小豆原埋没林**（3500年前の縄文時代後期）と、平成15年の**佐田町上橋波横見埋没林**（約7万年前に埋もれたもの）共に三瓶山の火山活動による（後の調査で判明）発見と発掘との関わりです。

1度ならずも2度も、古代への夢とロマンとの不思議な出会いにめぐり合い私は言葉では言い現せない程の深い感銘をうけ、この仕事に携わってきたことに大変感謝しています。

しかし、ロマンとはかけ離れた社会、経済情勢、とりわけ建設業はこれまで経験したことのない厳しい状況です。

はるかかなたのセピア色した私達の子供の頃は、物は無くても野山を駆けずり廻り、心身共に満腹感を味わいながら、地域の中で育てられ、道徳心を知らず知らずのうちに持ちました。親を敬い、先輩の後ろ姿を手本とし、それが当たり前の時代でしたが今は、世界、日本を見ますと経済の混乱、諸物価の値上げ、食の安全に対する不安と又、今までに経験したことのない悲惨な事件があとを絶ちません。

10年一昔では無く、現在は1ヶ月でも世の中はめまぐるしく変わりますが、人間本来の和と互いに支え合う協調性を持ち安心、安全で責任ある仕事をし顧客のニーズに応えられる会社でありたいものです。

私も何度目かの年男を迎えましたが、同業種は勿論ですが異業種の方、又、当社の社員の方から教えられることが随分多くあり、私にとってこの出会いが秤にかけられない程の貴重な心の財産であると認識しています。

経営の神様といわれる松下幸之助さんの言葉を借りれば

**「二階へ上がりたいと思う人がいたから**

**ハンゴが出来、階段が出来た。熱意と努力だ」**

この言葉を経営学の基本として学ぶことも肝要であろうと思います。

厳しい時代の中で当社は「ヒヤリハットは危険の始まり、みんなで共有事故防止」を目標に掲げ社員の一人一人が自分たちが今だからこそ、納得の出来る仕事と人間関係を構築し、全社員が営業マンであるという自覚を持ちたいものです。

度重なる公共工事の削減と山間部における地域的な面においても我社も非常に厳しい現状ですが、社員が一丸となり新しい年に向かいマイナスをプラスに転じるようにしたいと願って年頭の挨拶と致します。



山陰建設工業(株)  
磯田 真左一



新年明けましておめでとうございます。

私は今年4回目の歳男を迎えることとなりました。少年・あんちゃん・わけもん・おっさんと順調に歳をとってきました。40代になってからは、おねえちゃん!方に自分のことを『おっさん』と呼んでいることに違和感を感じなくなっているのを少し寂しく思っています。

100年に一度の経済危機と言われているこの時期に歳男としての抱負を聞かれても日々の出来事に翻弄され一日を無事終えることで精一杯の私には皆様に語れることなどありませんが、そういう訳にもいかないので一つだけ伝えたいと思います。

私は昨年、人間関係、信頼関係でとても辛い思いをしました。昨今の経済状態では信頼関係など成立しないのは当たり前のことかもしれません。しかし、こんな世の中だからこそ今まで積み上げてきた人間関係、信頼関係が崩壊しない社会であり業界であって欲しいと思います。

最近、私の周りでは『いーのよ〜』という言葉が、やたら流れています。M組のE社長さんやN組のY部長さんは、とてもにこやかな笑顔で『いーのよ〜(∩o∩)』と発せられます。TPOを考えずに連発されるのは困りものですが、それでも、その場の雰囲気が和んでしまうから不思議です。自分が出雲に来た10年前は業界もすべてではありませんが、この『いいのよ』の気持ちで問題が解決する事が多かった様に思います。今、経済危機と言われるこの時代に、昔のように『いいのよ』という気持ちを持つということは無理なことです。しかし、こんな時代だからこそ、『いいのよ』という言葉のを忘れない業界、協会であって欲しいと思います。『いいのよ』という言葉になら『福の神々』も乗ってあげても『いーのよ〜(∩o∩)』と言ってくれるかもしれません。

牛もストレスや環境の変化で肉質は落ち商品価値はなくなってしまいます。これから業界もさらに厳しくなり、うつり変わる環境の中で自分も品質価値を落とさぬよう押し寄せてくるストレスと戦っていかなくてはならないと思います。

本年もよろしく願いいたします。